

事務事業評価

平成 24 年度

担当グループ 観光ジオパークグループ

基本事項	事務事業名	島原城耐震補強設計業務				整理番号	1505		
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	○あり ●なし		
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第5章 「農漁商観」が融合した活力ある産業をつくる	予算科目	7 款 1 項 3 目	○継続 ●新規				
		節 第4節 観光業の振興	事業区分	市民サービス事業					
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	島原城天守閣は昭和39年3月に再建され、今年で48年を過ぎた。安全の確保の必要性から平成23年度に耐震調査を実施し、その結果に基づき平成24年度に天守閣の耐震設計業務を行う。					計画期間	始期	平成 22 年から
							終期	平成 24 年まで	
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	平成23年度の耐震診断により耐震基準を満たしていないと判断された島原城天守閣の耐震化を図る。							
	目的達成のための手段・方法	来年度の耐震補強工事に向けて設計を行う。							
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名 称 等 (内 容)		単位	22 年度	23 年度	24 年度		
		●島原城の耐震化 平成23年度耐震診断結果 ・地下部分 IS値 0.36 ・3階部分 IS値 0.46 ↓ 平成25年度の耐震補強工事により基準値(IS値0.48)以上とする。		目標 実績 達成率	IS値		0.36	0.48以上	
活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	○耐震診断結果 ・島原城天守閣……………耐震補強を要する(Is値<0.48) ・西の櫓……………耐震補強を要する(Is値<0.48) ・巽の櫓(西望記念館)……耐震補強を要する(Is値<0.60) ・丑寅の櫓(民具資料館)……耐震補強を要する(Is値<0.60)		目標 実績	棟		4			
			目標 実績	棟		4			
事業費等の推移	年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度		
	区分	実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画		
	①直接事業費(千円)				7,676	6,113	6,580		
	財源内訳	国 県 支 出 金				1,621	2,037	2,193	
		地 方 債							
		そ の 他							
		一 般 財 源	0	0	0	6,055	4,076	4,387	
②従事職員給与費 b1×b2	0	0	0	1,664	1,674	0			
従事職員数(人) b1	0.00	0.00	0.00	0.23	0.23	0.35			
職員平均人件費 b2	7,153	7,162	7,168	7,236	7,277				
事業費合計 ① + ②	0	0	0	9,340	7,787	6,580			

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった 島原の観光のシンボルである島原城の耐震を図り、観光客等の安全を確保することは必要である	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である	A
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要	A
有効性	④事業の実施により初期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 目的である島原城天守閣の耐震化に向けた設計工事を行った。	A
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要	A
効率性	⑥活動量や成果を下げずにコストを削減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	-
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか		A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	-
判定評点平均			3.00
A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			

◎総合評価			
評価結果	◎ A. 継続実施(特段の見直しは行わない)	判断理由	平成23年度耐震調査(天守閣・西の櫓・巽の櫓・丑寅の櫓) 平成24年度設計業務(島原城(天守閣)耐震補強設計業務委託) 平成25年度耐震工事(島原城(天守閣)耐震補強工事)
	B 改善・見直しを行う		
	○ B1 事業規模の拡充		
	○ B2 事業規模の縮小		
	○ B3 事業内容の改善・見直し		
	○ B4 その他の見直し		
○ C 休止(隔年実施などへの変更)			
○ D 廃止(終期の設定等を含む)			
(実施上の課題等)			
今後の課題及び改善策、見直しの状況			
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せてを記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。			

【2次評価】

総合判定	A 継続実施(特段の見直しは行わない)
備考	

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	(千円)